

問題発見型／解決型学習(FBL/PBL)  
テーマ提案（学生募集内容） / Project Proposal

テーマ名称 Project name	データの地産地消～スマートツーリズムのデータエコシステム～ Regional data consumption in the region: data ecosystem of smart tourism
実施責任者 Instructors	学術情報メディアセンター／情報学研究科知能情報学専攻 教授 美濃導彦 学術情報メディアセンター 特定講師 笠原秀一 デザイン学ユニット 特定准教授 村上陽平 Professor Michihiko Minoh Associate professor / lecturer Hidekazu Kasahara Associate professor Yohei Murakami
実施協力者 Collaborators	IT コンソーシアム京都 IT consortium Kyoto (行政機関及び民間企業などと調整中)
テーマの背景 Background	<p>2010年代以降の知的情報処理技術の発達は、混雑予測や観光スポット推薦など新たな観光情報サービスを用いたスマートツーリズムを生み出しつつある。スマートツーリズムは観光客の行動スタイルを変えるだけでなく、サービスを経由して地域社会や自治体にデータが還元されることで、データオリエンテッドな社会を実現する可能性を秘めている。しかし、スマートツーリズムが必要とするリアルタイムな動的データは、携帯端末や SNS からの民間保有データが中心であり、公共交通機関の位置情報など公的機関が保有するデータのオープン化は進んでいない。本研究では、オープンデータ化を待ってサービスを作る受け身の姿勢ではなく、民間企業や地域団体が提供するサービス群から得られる動的データを地域がどう活用するかというデータ利用のエコシステムをデザインすることで、地域でデータ収集と共有を行うデータドリブンなスマート destinations の実現を目指す。</p> <p>Now on-site smart services for tourists during staying in a destination such as traffic congestion forecasting and spot recommendation are being realized because rapid advances of intelligent information processing technologies after 2010's. This new tourism is called "Smart tourism." Smart tourism can realize data-oriented society by sharing regional data among local governments, regional society and providers via smart services. However, the smart services use only dynamic data gathered via mobile phone and SNS post, and other real-time dynamic data measured by public entities' sensors are not used because those are not opened. In this class, students will design new regional data ecosystem, and try realizing data-driven smart destination to gather and share data in the region.</p>

<p>実習の概要 Overview</p>	<p>本テーマでは、地域において生み出される様々なデータを地域で開発・提供する“データの地産地消”のコンセプトを元に、今後観光客が利用するようになるスマート観光サービス群を予想し、次にサービス群から得られる地域データが地域社会、自治体、観光客にどのように活用され、社会が変化していくかというデータ利用のエコシステムをデザインする。本実習では、行政機関のデータ担当者やベンチャー、旅行業者へのインタビュー、公開データの分析、技術の調査から得られた知見を元に、スマート観光サービス群がどのように利用されるのかというユースケースを予測し、想定したサービス群から得られるデータの地域社会還元の大枠をデザインを設計する。データはGPS 移動軌跡など動的データを中心に扱う。外部関係者に対してプレゼンテーションを行って評価を得る。</p> <p>Students will predict future smart services, and design a regional data ecosystem based on “regional data consumption in the region.” The concept of “regional data consumption in the region” means that data measured in a region should be used for regional services for the regional inhabitants and tourists. In this class, students predict future smart services based on knowledge gathered by interview with local governments, venture companies, and travel industry as use cases, and design data ecosystem in the region using the data gathered via services. Mainly we use dynamic data such as GPS trajectory. Finally, students will make presentation their service design to the related person and are evaluated.</p>
<p>実施計画、実施場所 Schedule, location</p>	<p>10月～1月中旬。原則2コマ以上連続で実習を行う。日程は履修者が確定したのちに調整する。中間発表は12月5日(火)。</p> <p>吉田南 学術情報メディアセンター南館</p> <p>October to mid January. Schedule will be adjusted after members are decided. Academic Center for Computing and Media Studies, South Building in Yoshida Minami campus. Midterm presentation in 5<sup>th</sup> December.</p>
<p>履修条件 Conditions for participation</p>	<p>特になし。 Nothing</p>
<p>募集人数 / Number of participants</p>	<p>2名以上，4名以下 2 to 4</p>
<p>1次募集締切 Application deadline</p>	<p>10月6日(金) 6<sup>th</sup> October</p>
<p>応募資格 Intended participants</p>	<p>京都大学の学部生，大学院生，他大学の学部生，大学院生，社会人。応募多数の場合には，デザイン学履修者を優先する。</p>
<p>応募方法 How to apply</p>	<p>デザイン学公式 Web の FBL/PBL のページ（下記）から参加申込を行うこと。 <a href="http://www.design.kyoto-u.ac.jp/education/fbl_pbl/">http://www.design.kyoto-u.ac.jp/education/fbl_pbl/</a></p>
<p>参加者の決定 Decision of participants</p>	<p>10月11日(水)までにメールで参加の可否を通知。 ※1次募集で参加不可となった者を主な対象として2次募集を行う(10月13日～17日)。参加者枠に余裕のあるテーマに応募可能。(原則として先着順)</p>

問題発見や解決に用いるデザイン理論やデザイン手法 Design theories and methods for framing and solving problems	ブレインストーミング, ワークショップ, インタビュー調査. Brain storming, workshop, interview.
理論や手法の学習方法 How to study theories and methods	実習中に実体験する. 参考: 吉田耕作「ジョイ・オブ・ワーカー組織再生のマネジメント (日経 BP 社)」 「国際競争力の再生 (日科技連出版)」 山内祐平ら「ワークショップデザイン論」(慶応大学出版会)
成果の公開方法 Publication of the results	行政機関やベンチャー企業といった外部の関係者を招いた公開プレゼンテーションを行う. Open presentation for related persons.
成績評価方法 Evaluation	・出席 3 割 ・活動状況 4 割 (教員の観察による) ・最終結果の質 3 割
特記事項 Special remarks	テーマに関する質問があればメールで受け付ける. 宛先: <a href="mailto:hidekazu.kasahara@mm.medi.kyoto-u.ac.jp">hidekazu.kasahara@mm.medi.kyoto-u.ac.jp</a>

## 実施計画 / Schedule

コマ Unit	日程 Date	場所 Location	実施内容 Content
1-2	10/23(月)	吉田南	テーマの説明 スマートツーリズムサービス
3-4	週末又は 6 限以降	吉田南	サービスのブレインストーミング
5-6	週末又は 6 限以降	吉田南	サービス群の調査, 設計
7-8	週末又は 6 限以降	吉田南	データエコシステムのブレインストーミング
9-10	週末又は 6 限以降	吉田南	データエコシステムの調査, 設計
11-12	週末又は 6 限以降	吉田南	プレゼン用意
13	12/5 (火)	吉田、桂	中間発表会 (予定: 18 時~)
14	週末又は 6 限以降	吉田南	再調査 エコシステムの再設計
15	週末又は 6 限以降	吉田南	発表